

めいけんちく 【名建築】



名建築に包まれた染色の美 静岡市

いくつもの手間をかけて生み出される型染め。日本の伝統的な染色技法であり、人間国宝の染色家・芹沢銈介^{せりざわけいすけ}が用いた技法でもある。ここ「芹沢銈介美術館」は、芹沢の郷里、静岡市にあり、芹沢作品約800点、芹沢が収集した工芸品約4,500点を収蔵する。のれん、着物、絵本など、芹沢作品の色彩のあたたかさ、図案の美しさに、ただただ見とれるばかり。年3回の企画展を通じて、様々な視点から作品を鑑賞できるのもうれしい。それに対して、美術館の建物は別名「石水館」といい、館内も石の壁、無垢材を組んだ天井など、自然素材が使われた重厚な空間となっている。建築家・白井晟一^{しらい せいいち}によるもので、この建築を目当てに訪れる人も多い。また、東京・蒲田から移築した附属施設「芹沢銈介の家」は、凜とした佇まい。玄関先の土間からは芹沢の創作の場でもあった1階の応接間が見学できる。実用の美と創意の美を、静かに主張する芹沢作品と、それを包む白井建築。鑑賞するうちに、不思議と穏やかな気持ちになっていた。

N 石と木の重厚な空間に、型染めの色とかがちが映える

静岡市立芹沢銈介美術館

Note 〒422-8033 静岡県静岡市駿河区登呂5-10-5 ☎054-282-5522 <http://www.seribi.jp/>

開館時間／9:00～16:30 休館日／月曜・祝日の翌日、展示替期間中、年末年始

観覧料／一般410円、学生(大学生・高校生)250円、中学生以下無料

美術館は弥生時代の遺跡として知られる登呂遺跡公園に位置する。9月2日(日)までは、「手のひらの上の宇宙 芹沢銈介の絵本と世界の書籍」を、9月11日(火)～10月21日(日)は「身にまとうようこび 芹沢銈介の着物と世界の民族衣装」を開催。

美意識を感じる日常の住まい

芹沢銈介の家

開館日／美術館開館日の日曜・祝日(8月は土曜日も開館)

開館時間／9:00～16:30(開門) 観覧料／美術館に入館された方は無料

もとは宮城県にあった板倉(木造の倉)で、芹沢銈介が移築し、建具を変えるなどの工夫を施した。芹沢がデザインした鉄製のイスや引き戸なども観られる。1987(昭和62)年、静岡に移された際に庭の樹木の一部も移植され、当時の雰囲気も再現されている。

 新東名 新静岡ICより約30分／東名高速 静岡ICより約10分

